

慶應義塾大学文学部

3つの方針

【人文社会学科・人間科学専攻・学士（人間関係学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の知識および方法論を修得しながら、人間についての総合的・多元的な理解を行い、現代社会における人間・社会・文化に関するさまざまな問題を分析・解決できる人材を育成することを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（人間関係学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)：心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の理論と方法についての基礎知識を修得していること。

資質・能力目標(2)：人間行動についての定量的・行動科学的な分析と、定性的・質的な分析の両方を行いうる能力、それらの能力を用いて自分で具体的な問題を分析できる能力を修得していること。

資質・能力目標(3)：分析結果をわかりやすく他者に説明・提示し議論できるプレゼンテーション能力と、それらを文章化して表現できる論文作成能力を修得していること。

資質・能力目標(4)：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を修得していること。あるいは、卒業試験において、同等の内容を提示する能力を修得していること。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文あるいは卒業試験は、次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科人間科学専攻（学士：人間関係学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、人間科学基礎、人間科学研究法基礎、人間科学演習、人間科学特殊、人間科学研究会、人間科学卒業研究および必修語学科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1)人間を多角的にとらえるための認識論と方法論の基礎を学び、本専攻のカリキュラムの全体像を明らかにすると同時に、これ以降の専門教育科目の位置づけを与えるために「人間科学基礎」と「人間科学研究法基礎」の二つの必修科目を置く。
- (2)心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の理論と方法の基礎を学ぶために「人間科学諸領域Ⅰ（個人）」、「人間科学諸領域Ⅱ（対人）」、「人間科学諸領域Ⅲ（社会）」、「人間科学諸領域Ⅳ（文化）」の四つの必修科目を置く。
- (3)人間科学に含まれる個別のテーマについて専門的な知識を修得すると同時に、自らの関心を深化させるための専門教育科目群として「人間科学特殊」を置く。またデータの収集と分析を演習形式で学ぶための「人間科学研究法」、文献の読み方を演習形式で実践的に学ぶ「人間科学演習」も設置する。
- (4)自ら問題を設定・分析し、結果を発表・議論するスキルを身に着けるために「人間科学研究会」を設置する。
- (5) 4年次には学修成果を総動員し、「人間科学研究会」または「人間科学卒業研究」を通じて、学生が自らの関心に基づいて研究論文の作成を行う。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)：心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の理論と方法についての基礎知識を修得していること。

→「人間科学諸領域Ⅰ（個人）」、「人間科学諸領域Ⅱ（対人）」、「人間科学諸領域Ⅲ（社会）」、「人間科学諸領域Ⅳ（文化）」を通じて各分野の理論と方法について基礎知識を修得する。

資質・能力目標(2)：人間行動についての定量的・行動科学的な分析と、定性的・質的な分析の両方を行いうる能力、それらの能力を用いて自分で具体的な問題を分析できる能力を修得していること。

→「人間科学基礎」および「人間科学研究法基礎」を通じて、人間を定量的ならびに定性的なアプローチによって多角的にとらえるための分析法（認識論と方法論）を学ぶ。専門科目群（「人間科学特殊」「人間科学研究法」「人間科学演習」）を通じて、より専門的な知識と分析方法を学び、「人間科学研究会」または「人間科学卒業研究」における研究論文の作成を通じて、具体的な問題の分析能力を修得する。

資質・能力目標(3)：分析結果をわかりやすく他者に説明・提示し議論できるプレゼンテーション能力と、それらを文章化して表現できる論文作成能力を修得していること。

→「人間科学研究法基礎」および「人間科学研究法」を通じて分析結果を理解しプレゼンテーションする能力の基礎を身に着け、「人間科学研究会」または「人間科学卒業研究」における演習を通じてプレゼンテーション能力を発展させる。それを踏まえ4年次の研究論文執筆によって、分析結果を文章化して表現する論文作成能力を修得する。

資質・能力目標(4)：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を修得していること。あるいは、卒業試験におい

て、同等の内容を提示する能力を修得していること。

→ 4年次の「人間科学研究会」または「人間科学卒業研究」を通じた研究論文の執筆によって修得する。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な審査によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。